

2月園だより

令和7年2月1日

目黒区立第二上目黒保育園長

2歳児クラスの子が2人で木製の線路をつなげ、汽車を走らせています。線路の周囲にレンガ積木を置いて駅を作ったり、汽車には動物積木を乗せたりして空間が賑やかになっていきます。1人の子が「ここに汽車を並べるんだ」「ぞうさん 乗せてみよう」「じゃ、こうしよう」と、自分の行動を実況中継するように喋ります。もう1人の子はそれに賛同するわけでもなく、かといって否定もせず、2人の間で言葉によるコミュニケーションが成立している感じではないのですが、遊びは平和に続いていきます。

満2・3歳を迎える頃には、子どもと保育士又は子どもと子どもが『言葉』を介してやり取りする関係が成立するようになってきます。2歳児クラスは今まさに言葉を介した遊びが盛んな時期ですが、それは会話と呼ぶにはまだ遠く、一方通行な感じに聞こえます。それでも遊びが続くのは、一方通行に思える言葉が実はお互いをしっかりつなぐ役割を担っているからだと感じます。実況中継のようなお喋りも「私たち一緒に遊んでいるんだよね」「気持ちが通じ合っているよね」といった相手との確認の意味を持つと言われています。知っている言葉や使える言葉は少ないけれど、子ども同士は一緒に遊べる喜びを伝え合い、つながっているのだと感じます。子どもたちの声が行き交ってこそその保育園です。楽しく安心できる雰囲気の中で話したくなる気持ちを育み、周りの人に伝わる喜びを感じられるように、保育士も子どもたちの関係を丁寧につないでいきます。



節分（全クラス）

お店屋さんごっこ（全クラス）

中旬 身体計測・避難訓練



懇談会

2歳児クラス

16:30～18:00

1歳児クラス

16:30～17:45

4歳児クラス

16:30～18:00



獅子舞登場



つぼみ組（0歳児クラス）



1月の『新年子ども会』で職員による獅子舞を目にしました。その印象が強かったようで、保育室でさっそく再現しています。ハンカチを取りに行き、頭の上に乗せて両手で布の端をつまむと、保育士のお囃子に合わせて体を左右に揺らして獅子になったつもりです。「ね～んねん ころりよ～」と口ずさむとゴロンと横になり、獅子が眠る様子を再現しています。獅子が目覚める場面では、保育士が太鼓を叩く姿を真似て「ドコドコドコ」と言いながら友達を起こす子もいます。みんなで一斉に起き上がると再び踊りだし、笑い合っています。可愛い獅子たちは保育室を飛び出し、散歩先でも見つけた小枝を太鼓のバチに見立てて地面を叩いたりして気持ちの向くままに民舞を表現し、楽しさを感じています。

懐かしいのに 今も楽しい

～伝承遊び～

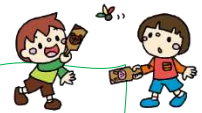
さくら組（3歳児クラス）

紙コップで作った自分だけの『けん玉』に愛着を持っている子どもたちは「早くコップの中に入れられるようになりたい」と練習に余念がありません。「先生見ていてね」と夢中になって遊ぶ眼差しからは真剣な思いが溢れ、見ている側にも伝わってくるのですが、気持ちが高まると玉の動きに合わせるように一緒に飛び跳ねてしまう姿が3歳児らしく可愛いです。いつものように練習をしていた時、友達の玉が見事にコップの中に入りました。子どもたちは「すごい」「やったね」と大喜びです。友達が成功したことを自分のことのように喜び合える姿をととても嬉しく感じました。

けん玉を始めとする伝承遊びを通して新しい事に挑戦してみようと思う意欲を高めたり、友達との関わりを広げたりしている子どもたちです。



すみれ組（4歳児クラス）



「先生、コマやりたい」「羽根つき やりたい」と、年明けから様々な遊びを楽しんでいます。手回しコマは力の加減が難しく、思うように回すことが出来なかったのですが、取り組み続けることで回せるようになると、どちらが長く回せるか友達との勝負を楽しむようになりました。羽根つきは見た目よりずっと難しく、羽子板になかなか羽が当たりません。「羽子板を変えたらうまくできるかな」と別の板に変えてみたりして試しますが、うまくいきません。子ども同士では難しいので保育士が相手になることで1～2回続くと大喜びです。予想外の方に羽が飛んでいたり、勢い余って天井の扇風機の中に入ってしまったたり、ハプニングも楽しく子どもも保育士も真剣です。

初めての経験も、積み重ねていくことで“楽しい”に変わっていくことを子どもたちは実感しています。難しいと感じる事もやってみることで自信につながるように、保育士も一緒に遊び、一緒に考え、そして楽しんでいきます。



ひまわり組（5歳児クラス）

紐ゴマや本物のけん玉は、年長児クラスだからこそ楽しめる遊びです。コマに紐を巻き付けることやけん玉の皿に玉を乗せることは実際にやってみるととても難しく、気持ちが先走るばかりで簡単には出来ません。うまくいかなくて「出来ないよ」と諦めそうになる子もいましたが、友達や保育士の姿を見て「できるようになりたい」「もう一回やってみる」と気持ちを奮い立たせ、繰り返し挑戦しています。「偶然出来た」から「何回か出来た」に変わっていくと見通しが持てるようになり「もうちょっとで 出来そう」「出来るようになった」とその度に嬉しそうに伝えにきます。けん玉では、皿に乗った回数分スタンプを押せるカードを作るとすぐに埋まり、コマを安定して回せるようになった子は長回し対決を楽しんでいます。

伝承遊びは初めての経験という子も多かったのですが、自分の中の目標を定めたり友達からも刺激を受けたりしながら、達成する喜びや競い合う楽しさを感じています。

